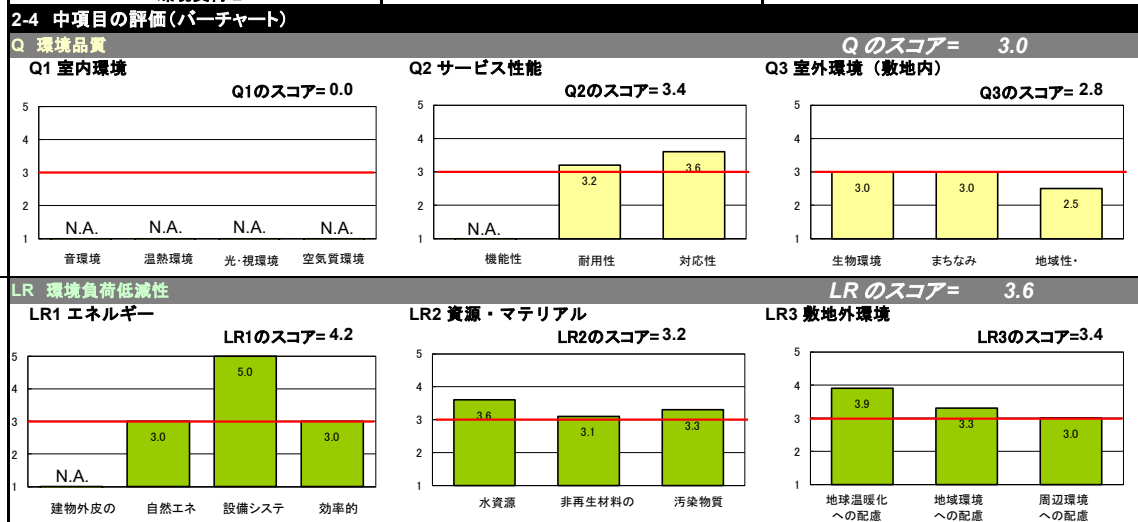
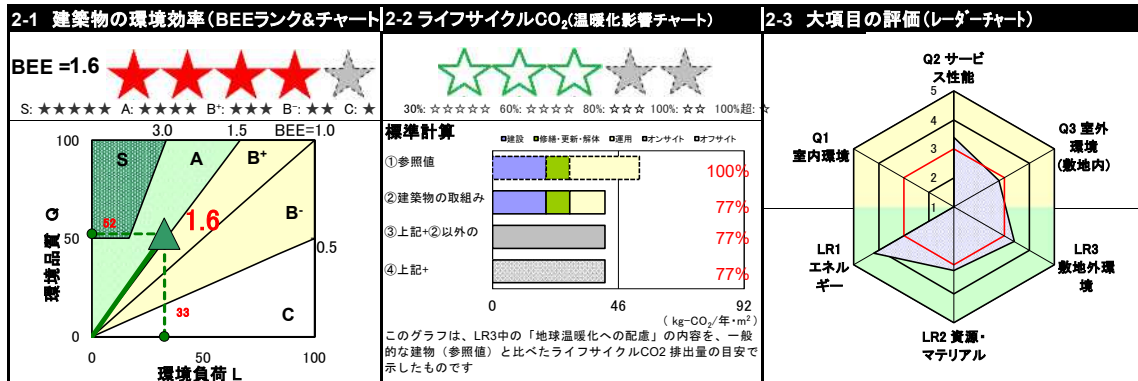


CASBEE[®] あいち

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

| 評価結果 |

1-1 建物概要	1-2 外観
建物名称 (仮称)東精エンジニアリング名古屋工場	階数 地上2階
建設地 愛知県愛知郡東岡町大字諸輪字東諸輪4番 地50番	構造 S造
用途地域 指定なし	平均居住人員 300 人
気候区分 6地域	年間使用時間 1,920 時間/年
建物用途 工場	評価の段階 実施設計段階評価
竣工時期 2025年7月 予定	評価の実施日 2025年5月19日
敷地面積 35,888 m ²	作成者 加藤翼
建築面積 6,710 m ²	確認日 2025年5月19日
延床面積 13,107 m ²	確認者 加藤翼



3 重点項目		
①地球温暖化への配慮 3.9	③敷地内の緑化 3.0	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積) 32.2 % 建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積) 0.0 %
②資源の有効活用 3.3	④地域材の活用 1.0	<外装材に使用した地域性のある材料> なし <建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材> なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性

LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$ 建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$ 

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
(仮称)東精エンジニアリング名古屋工場

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		住居・宿泊部分		全体
			評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質									3.0
Q1 室内環境									
1 音環境									
1.1 室内騒音レベル			3.0	-	-	-	-	-	
1.2 遮音			-	-	-	-	-	-	
1 開口部遮音性能			-	-	-	-	-	-	
2 界壁遮音性能			-	-	-	-	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			-	-	-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			-	-	-	-	-	-	
1.3 吸音			-	-	-	-	-	-	
2 温熱環境									
2.1 室温制御			-	-	-	-	-	-	
1 室温			3.0	-	-	-	-	-	
2 外皮性能			3.0	-	-	-	-	-	
3 ゾーン別制御性			3.0	-	-	-	-	-	
2.2 湿度制御			3.0	-	-	-	-	-	
2.3 空調方式			3.0	-	-	-	-	-	
3 光・視環境									
3.1 昼光利用			-	-	-	-	-	-	
1 昼光率			3.0	-	-	-	-	-	
2 方位別開口			-	-	-	-	-	-	
3 昼光利用設備			3.0	-	-	-	-	-	
3.2 グレア対策			-	-	-	-	-	-	
1 昼光制御			5.0	-	-	-	-	-	
3.3 照度			3.0	-	-	-	-	-	
3.4 照明制御			3.0	-	-	-	-	-	
4 空気質環境									
4.1 発生源対策			-	-	-	-	-	-	
1 化学汚染物質			3.0	-	-	-	-	-	
4.2 換気			-	-	-	-	-	-	
1 換気量			3.0	-	-	-	-	-	
2 自然換気性能			3.0	-	-	-	-	-	
3 取り入れ外気への配慮			3.0	-	-	-	-	-	
4.3 運用管理			-	-	-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視			3.0	-	-	-	-	-	
2 喫煙の制御			3.0	-	-	-	-	-	
Q2 サービス性能					0.43				3.4
1 機能性									
1.1 機能性・使いやすさ			-	-	-	-	-	-	
1 広さ・収納性			3.0	-	-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応			3.0	-	-	-	-	-	
3 バリアフリー計画	独自		3.0	-	-	-	-	-	
1.2 心理性・快適性			-	-	-	-	-	-	
1 広さ感・景観 (天井高)			3.0	-	-	-	-	-	
2 リフレッシュスペース			3.0	-	-	-	-	-	
3 内装計画			3.0	-	-	-	-	-	
1.3 維持管理			-	-	-	-	-	-	
1 維持管理に配慮した設計			3.0	-	-	-	-	-	
2 維持管理用機能の確保			-	-	-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性			0.5	3.2	0.52	-	-	-	3.2
2.1 耐震・免震・制震・制振			0.4	3.0	0.48	-	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)			3.0	3.0	0.80	-	-	-	
2 免震・制震・制振性能			3.0	3.0	0.20	-	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数			0.3	3.7	0.33	-	-	-	
1 躯体材料の耐用年数			-	3.0	0.23	-	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔			-	5.0	0.23	-	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			-	5.0	0.09	-	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔			-	3.0	0.08	-	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			-	4.0	0.15	-	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔			-	3.0	0.23	-	-	-	
2.4 信頼性			0.1	2.8	0.19	-	-	-	
1 空調・換気設備			3.0	3.0	0.20	-	-	-	
2 給排水・衛生設備			3.0	3.0	0.20	-	-	-	
3 電気設備			3.0	3.0	0.20	-	-	-	
4 機械・配管支持方法			3.0	3.0	0.20	-	-	-	
5 通信・情報設備			3.0	2.0	0.20	-	-	-	

3 対応性・更新性			0.4	3.6	0.48	-	-	-	3.6
3.1 空間のゆとり			0.3	5.0	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり		階高を確保し、更新性に配慮した計画としている。	-	5.0	0.60	-	-	-	
2 空間の形状・自由さ		空間の自由さを確保し、用途変更等にも対応できる。	3.0	5.0	0.40	-	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	3.0	0.31	-	3.0	-	
3.3 設備の更新性			0.3	3.0	0.38	-	-	-	
1 空調配管の更新性	②		-	3.0	0.17	-	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	-	0.57	-	-	-	2.8
1 生物環境の保全と創出	独自③		-	3.0	0.30	-	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮	独自④		-	3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	2.5	0.30	-	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④		-	2.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			-	3.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	-	-	3.6
LR1 エネルギー			-	-	0.40	-	-	-	4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制			3.0	-	-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用			3.0	3.0	0.13	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		BEI=0.51	3.0	5.0	0.63	-	-	-	5.0
4 効率的運用			0.2	3.0	0.25	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング			-	-	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制			-	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	-	0.30	-	-	-	3.2
1 水資源保護			0.1	3.6	0.15	-	-	-	3.6
1.1 節水		過半以上に、節水機能や省水型機器を採用している。	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.3	0.60	-	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無		井水利用をしている。	3.0	4.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	3.1	0.63	-	-	-	3.1
2.1 材料使用量の削減		材料使用量を削減できる工法を採用している。	-	4.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	3.0	0.24	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	②	-	-	3.0	0.20	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	独自	-	3.0	1.0	0.20	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	2.0	0.05	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自	LGS工法、OAフロアを採用し、再利用可能性の向上に努めた。	3.0	5.0	0.24	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	3.3	0.22	-	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	3.5	0.68	-	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)		GWP値の低い断熱材を採用している。	-	4.0	0.50	-	-	-	
3 冷媒			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境			-	-	0.30	-	-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮	①	ライフサイクルCO2排出率77%	-	3.9	0.33	-	-	-	3.9
2 地域環境への配慮			0.3	3.3	0.33	-	-	-	3.3
2.1 大気汚染防止		燃焼機器の採用はない。	-	5.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			-	3.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	2.5	0.25	-	-	-	
1 雨水排水負荷低減	独自		-	3.0	0.25	-	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			-	3.0	0.25	-	-	-	
3 交通負荷抑制	独自		-	3.0	0.25	-	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			-	1.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮			0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 騒音	独自		-	3.0	1.00	-	-	-	
2 振動	独自		-	-	-	-	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 風害の抑制			-	3.0	0.70	-	-	-	
2 砂塵の抑制			-	-	-	-	-	-	
3 日照障害の抑制			-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制			0.2	3.0	0.20	-	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			-	3.0	0.70	-	-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目スコアシート

(仮称)東精エンジニアリング名古屋工場

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.9
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.9	0.10	3.3
② 資源の有効活用				
Q2-2	耐震性・信頼性	3.2	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.1	0.19	
③ 敷地内の緑化				3.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.17	外構緑化:32.2%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 $\frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{重みの総和}}$

重点項目スコア= $\frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{重みの総和}}$

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

環境設計の配慮事項

■建物名称 (仮称)東精エンジニアリング名古屋工場

計画上の配慮事項	
総合	・東郷町に新築される工場兼事務所である。 ・高効率な設備機器の採用等により、CO2削減にも積極的に取り組む計画となっている。
Q1 室内環境	・対象外。
Q2 サービス性能	・将来の用途変更の可能性等を考慮し、建物の階高、空間の形状・自由さにゆとりを持った計画としている。
Q3 室外環境(敷地内)	・敷地内緑化により、地表面温度の上昇を抑制する計画としている。
LR1 エネルギー	・高効率な設備機器を採用し、エネルギーの効率的利用に配慮している。
LR2 資源・マテリアル	・主要水栓は節水器具とし、節水便器を使用する等水資源の保護に配慮している。
LR3 敷地外環境	・燃焼機器の設置をなくし、大気汚染防止に配慮している。
その他	